

4 学校自己評価・各分掌における評価 評価基準 A十分に達成できる状況 Bおおむね達成できる状況 C達成には努力を要する状況

部 名	令和4年度重点目標	令和4年度評価項目（評価基準）	中間 評価	中間での見直し・改善点	最終 評価	振り返り・次年度への課題
教 務	生徒が希望する進路に応じた選択科目群の編成 令和4年度入学生の新教育課程に基づいた群の編成	・生徒の希望する進路を意識した教育課程や選択科目群の編成表を作成する。 ・令和4年度入学生の新教育課程において、可能な限り生徒が希望する履修計画ができるように、群編成を行う。	A	・可能な限り生徒の希望や進路に沿った群編成を作成した。生徒の希望に添えない場合は、生徒の要望や希望進路を再確認した上で、調整を行った。 ・新教育課程と旧教育課程が混在する年度なので、教科書・副教材の採択、シラバス作成や評価計画などにおいて、各教科と連携しながら、遺漏なく進めていきたい。	A	・可能な限り生徒の希望や進路に沿った群編成を作成することができた。生徒の希望に添えない場合は、生徒の要望や希望進路を再確認した上で、調整を行うことができた。 ・また、シラバスの様式を改良し、学習評価についてより具体的に記載することにした。令和5年度入学生についても同様に進めていきたい。
	特色ある教育活動・学校行事の実践および広報	・学校の教育活動や情報、学校行事を生徒や保護者の皆さんに適宜案内・周知する。 ・学校評価やアンケートでの評価や具体的な意見を参考にしてPDCAを実践する。 ・受検を検討している中学生や保護者の皆さんに学校の教育方針や学校の様子を伝える。	A	・HP等を通して学校行事や生徒の様子を周知することができた。 ・Microsoft Formsでのアンケートを導入し、より具体的な意見を取り入れられる工夫をした。 ・8月に学校説明会を実施し、受検を検討している中学生にスライドや動画を使って本校の教育方針や特色を伝えることができた。また中学校における高校説明会では、看護科・総合学科各系列を代表する3年生から中学生へのメッセージを動画で紹介した。	A	・学校行事は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも各職員の協力により円滑に運営することができた。また、行事予定もHP等でお伝えすることができた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、8月に学校説明会を実施し、受検を検討している中学生にスライドや動画を使って本校の教育方針や特色を伝えることができた。公開授業は中止としたが、令和5年度は実施し、保護者や中学生、地域の方々に本校の生徒の様子を見ていただけるようにしたい。
教育 研究	自己教育力の育成	・自己教育力育成支援システムの個々のポイントを昨年度の数値より向上させる。	B	・今年度2・3年生の1学期末の平均ポイントと昨年度1・2年次のものと比べると、今年度67.3、昨年度69.7であり、2.4ポイント下がっている。昨年度も同様に2.5ポイント減だった。学年別に2年生→3年生を見ると変化は少ないものの、1年生→2年生は3.9ポイントと大きかった。現2年生の現在のポイント値も1年かけて落ち着いたものと考えられる。 ・数値の向上は生徒の日々の取り組みで向上するものであり、日々の指導に努めたい。	B	・本年度自己教育力支援システムについて全体に確認することができた。生徒も自己教育力の重要度について理解できている。しかしそれを意識した行動を日々とれているかという点と疑問が残る。今年度、現2・3年生が昨年度1・2年生の2学期末の平均ポイントと比較してみた。昨年度67.1ポイントに対し、今年度は60.8ポイントと大きく6.3ポイント下がっている。1年生→2年生は8.3、2年生→3年生は4.35ポイント減であった。2学期に大きくポイントを下落とす傾向がうかがえる。2学期以降のポイントについて再確認する重要性を感じた。
	進路や適性に合った科目選択の指導	・進路や適性に合った選択ができるよう、ガイダンス等を充実させる。	A	・今年度は、感染症対策の制限が緩和されたため、3年ぶりに系列科目選択保護者説明会を実施することができた。保護者の方々に説明する機会がもて、直接話し合うことができ、生徒の将来の進路に向けた科目の選択につながったように思う。 ・また、昨年同様に参加されなかった保護者の方に対する資料の配布も行い、丁寧に説明できた。1年次生担任の先生方への説明会をもち、科目選択・系列選択に共通の認識で取り組むことができた。	A	・3年ぶりに1年生保護者に向けての科目選択保護者説明会を実施することができると、保護者の方々により詳しく説明する機会をもつことができた。 ・また感染症禍で準備・精選された説明資料も活用し、よりきめ細やかな科目選択の指導を行うことができたと考える。先生方への説明も昨年同様詳しく行うことができた。
総 務	教育活動の円滑化	・各行事毎の記録写真を確実に残す。 ・防災訓練における避難時間の短縮をはかる。 ・机、椅子、ロッカー、掃除用具を適正に管理し、苦情が0件であることをめざす。	A	・行事が中止となったものがあるが、実施されたものについては記録できている。備品・清掃用具等については、適正な管理ができている。	A	・行事が中止となったものがあるが、実施されたものについては記録できた。備品、清掃用具等については、適正な管理ができた。
	保護者や同窓生との連携強化	・PTA総会出席率20％、評議員会出席率80％以上をめざす。 ・同窓会総会出席生徒を3年生から2名決定する。 ・「ひまわり」第6号を発刊し確実に保護者に届ける。 ・丸亀市PTAスポーツ大会予選リーグを初戦突破する。	B	・新型コロナウイルス感染症のため、多くの行事が中止となった。評議員会出席率は85％で、PTA総会は書面での審議となった。	B	・新型コロナウイルス感染症のため、多くの行事が中止となった。評議員会出席率は85％で、PTA総会は書面での審議となった。 ・「ひまわり」第6号を発刊した。来年度から廃止することに決めた。
進 路 指 導	進路意識の向上と適切な進路選択に向けた取組み（特に早めの就職指導）	・個別面談を実施する。 ・産社や探究の内容を踏まえ、学年団と連携する。 ・進路情報を提供する。	A	・就職希望者の個人面談や、職種別説明会などを実施し、就職希望者に対して情報を提供した。 ・3年探究からの要望により、就職希望者に対して、ガイダンスを数回行った。 ・1学期末の保護者懇談会の資料として、各学年に必要と思われる内容に即した冊子などを配付した。	A	・3年次生への就職指導については、就職希望者が昨年度より増加した一方で、JSTの勤務日の減少という厳しい状況となった。個人面談の回数は減らさざるをえなかったが、分野別説明会を実施し、就職希望者の意向を確認する機会をもった。総合学科には、1年次生に進学・就職の説明会を行った。2年次生にも今年度中に団からの要望を受けた内容に即して説明会を行う予定である。
	基礎学力の向上に向けた取組み	・学力テスト(校内実力テスト、校外テスト、漢字テスト等)を計画的に実施する。 ・生徒の学力情報を共有する。	B	・各種テストについては、計画に基づいた実施が行われた。漢字テストは、今年度の特別対応として、追試を該当者に行った。 ・校内実力テストの結果は、もう少し早く周知できるようにしたい。 ・今年度の試みとして、リテラスを総合学科2年次生で実施し、来年度以降本格実施へとつなげていきたい。	B	・進学希望者の中でも基礎学力を向上させて受験する生徒が増加するように、様々な働きかけができればよかった。 ・第3回校内学力テストについては、日程の検討課題があったが、冬季休業中課題との関連が薄くならないよう工夫ができればと思っている。
生 徒 指 導	遅刻・欠席、服装違反の減少	・特に遅刻に注目し、年間 800件以下にする。 ・特に髪の色、加工している生徒の数を減少させる。	C	・遅刻は9月末において、全校で521件の遅刻があり、昨年度以上に遅刻が増加している。普段の生活習慣から見直ができるようにすること、また、啓発活動を今以上に行わなくてはならない。 ・髪の色、加工に関しても、一定人数の加工、染色が見られる。継続して指導の必要性を感じる。 ・どちらの問題も、家庭との連携も図りながら、粘り強く取り組んでいく。	C	・遅刻数は11月終了時点で911件となり、大幅な遅刻増加となっている。不登校傾向の生徒増加、授業時間の遅れ等、不規則な日常生活が原因とみられる。生徒への継続的な指導、更なる段階的な指導、遅刻数目標の変更を考えなくてはならない。
	交通事故・違反の減少	・生徒の交通事故を年間で10件以下にする。	B	・10月末において、交通事故の報告が8件上がっている。交通ルールの順守、交通マナーの徹底を継続して啓発する。	B	・1月末において、9件の報告がある。本校生徒が自転車乗車中の事故に関して、警察への連絡がなかったため、後で連絡がある場合が見受けられる。事故にあった際の対処方法を合わせて指導する必要がある。
	安心・安全な学校生活の確保	・学校生活アンケートをもとに、いじめ等気になる生徒へ対応する。	A	・各担任、各団長先生を中心に、早期に問題を把握し、生徒とのコミュニケーションを取りながら向かって取り組めている。	A	・各担任、各団長先生を中心に、早期に問題を把握し、生徒とのコミュニケーションを取りながら向かって取り組めた。
健康 推 進	新しい生活様式に対応した学校生活が衛生的で、健康的な活力ある毎日がおくれる生徒の育成	・生活指導や衛生管理、感染症対策等について指導を行う。 ・学校での健康診断結果から治療指導や予防指導を行う。 ・学校職員やSC(スクールカウンセラー)・SSW(スクールソーシャルワーカー)等の面談を実施する。 ・ケース会など生徒へのサポート体制の検討立案を行う。 ・生活アンケートなど実態把握からの指導を行う。	A	・今年度の健康診断は予定通り実施できた。 ・新しい生活様式の意識向上につながる指導を継続していきたい。 ・感染対策の対応が変化しているがインフルエンザ等の対応と共に啓発、指導を行っている。 ・クラス担任やSC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)等の面談を実施できた。継続的に実施し生徒把握に努めたい。 ・個々のケースが多様化し各生徒に合った指導を有識者と考慮や検討していきたい。	A	・今年度の健康診断は予定通り実施報告できた。 ・新しい生活様式が定着してきていると感じる。 ・感染対策の対応がインフルエンザ等の対応に移行していくが今後も継続的な指導を行っている。
	安全で快適な学校環境整備	・校内巡回やアンケート調査を行う。 ・改善点を調査し調整や整備を行う。 ・感染予防対策の環境整備や立案、指導を行う。	B	・校内巡視やアンケート等を元の本年度は、バリアフリー化や夜間照明などの環境整備を行っている。 ・感染症対策を継続していきたい。 ・感染対策の新しい生活様式の指導を継続していきたい。	B	・校内巡視やアンケート等を今後も実施することで本校に必要な物品やシステムを検討していきたい。 ・元の本年度は、バリアフリー化や夜間照明などの環境整備を行った。感染対策を継続していきたい。
	人権・同和教育	・生徒自己評価アンケート結果より「積極的に取り組めたか」の項目のA＋B評価、75％以上をめざす。 ・「ひまわり」「人権通信」等の感想・意見、学校自己評価保護者アンケートの結果から、保護者啓発の成果を分析し評価する。	A	・LHRなどを通じて、生徒の人権意識を向上させる取り組みを行ってきた。より生徒が分かる授業を行うために、教材研究を続けていきたい。	A	・2学期LHRでは授業後のアンケートにおいて「積極的に取り組めたか」の項目に、約98％の生徒が「AもしくはB評価」と自己評価している。全ての生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫したい。
特別 活動	生徒会行事の充実	・生徒会行事をしっかりと運営させる。 ・積極的な行動運営や企画をする。	B	・新型コロナウイルス感染症のため、多くの行事が中止となった昨年に比べて、多くの行事が開催できたことはとてもよかった。その反面、感染状況によって変更を余儀なくされることも多く、結果として生徒・先生方を混乱させてしまったのが反省点である。	B	・昨年度に比べて、ほぼすべての行事を開催することができたのはとてもよかった。短縮になるやり方を構築できたことで良かった部分もあるので、次年度も引き続き縮小と元通りのバランスを考え、生徒、双方に良い開催方法を探していきたい。
	部活動の活性化	・大会やコンクールに積極的に参加させる。 ・放課後の部活動指導に取り組む。 ・部活動入部率をあげる。	B	・今年は1年生の入部率も多く、例年より多く入部した。しかし、継続的な努力が続かず、退部する生徒も多いため、部活動のあり方・方向性を統一するのが難しい。 ・来年度から中学校は土日の部活動を本格的に地域委託していくので、動向を確認しながら、部活動の活性化につなげていきたい。	B	・来年度から中学校は土日の部活動を本格的に地域委託していくので、動向を確認しながら、部活動の活性化につなげていきたい。本校でも外部講師の活用を促進することで、教員の負担や、あるいは生徒にとって大切な技術指導につなげていきたい。
	生活規律の確立	・欠席、遅刻をなくさせる。(出席率98％以上) ・整理整頓を習慣づけさせる。	B	・1学期の出席率は98.8％。懲戒件数は0で、出席状況に関してはまずまずである。携帯電話の指導を受けた件数が1学期11件、2学期に入って3件の14件。2回目の指導も1件あり、目標は達成できなくなった。指導の際に話を聞くと、1日4時間以上使用している生徒が多数みられ、携帯電話に依存した生活になっていることが伺われる。SNSへの悪口の書き込みなどのトラブルも多く見られた。学習時間が少なくなっているのも、これが原因の一つだろう。	B	・2学期までの出席率は98.4％。懲戒件数は0。人間関係やメンタルの問題で休みがちな生徒や、夜更かしで遅刻が増えた生徒が数名いる。出席率は目標を達成しつつあるが、良好とは言えないだろう。人間関係が難しくなる原因の一つであった携帯電話の使い方については、ずいぶん落ち着いた。整理整頓の習慣については、若干名困難な生徒がいる。いずれの問題も、今後も丁寧に声掛け、支援が必要である。
各学 年 団	活動意欲の向上	・部活動や生徒会活動、ボランティア活動に参加させる。 ・自己教育力育成支援システムを意識させる。(学年平均65ポイント以上)	B	・1学期の自己教育育成支援システムのポイント平均は69.5pと、まずまずの状況である。不器用ながら、素直に頑張っている生徒は多い。学習・学校行事・部活動などで、積極的な活動を促しながら、あきらめてしまう生徒が出ないようサポートしていく必要がある。	A	・2学期までの自己教育育成支援システムのポイント平均は68.4pと、まずまずの状況である。次年度は部活動や生徒会活動で、しっかりと活躍させたい。それらができない生徒には、クラスでの活動やボランティア活動などをさせていく必要がある。また、基礎学力の向上も不可欠で、学習習慣をつけさせたい。
	進路意識の向上	・総合学科は受験校(学部・学科等)や希望就職業種を決定させる。 ・看護科は病院実習を通し、医療に従事する者としての自覚を高めさせる。	B	・徐々に決めつつあるが、未決定の者もいる。保護者と相談しながら、将来の方向性を考えるよう指導してきたい。 ・看護科は1月に実習が開始される。入学時、戴帽式時の気持ちを持ち続け、誠実に実習に取り組めるように指導していきたい。	B	総合学科：進路希望が決まっていない生徒、決まっても具体的な行動に踏み出せていない生徒が少なくない。進路講話LHRや進路フェスタ等を有効に活用し、指導してきたい。 看護科：臨地実習をおとし、看護への思いをより強く持てるようになったのではと思う。実習での経験を生かして、さらに学習や就業に取り組む姿勢を身につけさせていきたい。
	生活規律の確立	・携帯電話の使用違反を5回以下、不注意による遅刻を延べ人数100以下にする。 ・自己教育力育成支援システムで、学年平均を70ポイント以上にする。	C	・10/21現在で、携帯電話の違反は4回、不注意による遅刻は延べ181回となった。1学期の自己教育力の学年平均は67.5ポイントである。 ・修学旅行を控えた現在、体調管理、時間厳守を徹底して行えるように指導してきたい。	C	・1/23現在で、携帯電話の使用違反は5件、不注意による(連絡なし)遅刻は347回となった。1・2学期の自己教育力の学年平均は64.3ポイントであった。規則正しい生活を、当たり前のことを当たり前にするなど、自己を律する力を今後指導していく必要性を強く感じている。
	進路希望の実現	・進路決定率100％にする。	B	・進路指導部と連携して、ガイダンスや面接指導等の取り組みを行った。まだ進路が確定していない生徒への指導を徹底し、進路決定に向けて力を入れた。	B	・進路指導部と連携した取り組みにより成果をあげた。進学希望者と学校推薦による就職希望者は、ほぼ進路が決まった。
	自己教育力の向上	・自己教育力育成支援システムを学年平均68ポイント以上にする。	B	・1学期の学年平均は、66.8ポイントで、目標をやや下回っている。卒業まで気を緩めることなく、自己成長に向けてより一層の努力を促したい。	C	・自己教育力育成支援システムの学年平均は、目標を下回った。進路決定後、一部の生徒にやや気持ちの緩みがみられた。
専 攻 科 看護科	看護職者をめざす者として常に自覚と責任を持って行動できる態度の育成	①健康の自己管理：出席率平均98％以上。 ②家庭学習の習慣化：授業アンケート結果で「予習復習による学習理解」の項目においてA評価が30％を超える。 ③節度ある言動・態度：学校評価アンケート結果(生徒で「身だしなみ」と「挨拶、時間を守る」の項目においてA評価が60％を超える。	C	①健康の自己管理：2年生の出席率が97.4％と評価基準を下回った。昨年度の臨地実習が全て校内で実施されたこともあり、今年度の臨地実習への不安が強く、長期間欠席する生徒も複数名いた。 ②家庭学習の習慣化：2学年共22％台と評価基準を下回った。課題が出なければ学習しないという生徒が多かった。 ③節度ある言動・態度：2学年共化粧や頭髪指導を繰り返す生徒が複数名いた。 看護職者として働く日をイメージできるよう、はたらきかけていく。不安の強い生徒については、複数名でかかわり、早い段階での対応に努める。	C	・12月実施の学校評価アンケート(生徒)の結果でも、「身だしなみ」の項目で「よくあてはまる」38.5％、「挨拶、時間を守る」の項目で「よくあてはまる」43.6％と、評価基準を下回った。3つの評価項目(評価基準)において、前年度とほぼ同様の結果であり、改善には至らなかった。担任だけではなく、関わった教職員がその場で指導を行い、看護職者をめざす者としての自覚と責任を意識させるよう努めたい。